

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

LI YUANSHENG

【所属】(助成決定時)

大阪大学国際公共政策研究科

【研究題目】

「1995年沖縄米兵少女暴行事件後の日米関係についての歴史的考察」

【研究の目的】(400字程度)

冷戦後、日米関係がソ連の崩壊により、維持することは一時的に難航になった。さらに、1995年に起きた沖縄米兵少女暴行事件が、この状況の悪化に拍車をかけた。当時事件発生後、沖縄で人権擁護・反米軍・反基地のために行われたデモ、集会などの活動の気分が高揚し、全国まで広がった。先行研究には日米両国政府の協議と対応、及び1995年の沖縄事件と冷戦後日米同盟の再定義との繋がりを研究してきた。しかし、反対活動の先頭に立った女性団体の行動が日米関係に与えた影響はほぼ無視されてきた。本研究は、1995年沖縄米兵少女暴行事件後の反米軍・反基地団体、特に女性団体の活動を考察し、これらの活動が90年代の日米関係にどのような影響を与えたのかということをも目的とするものである。また、日米関係は東アジアの国際関係の重要な一部として国と国間の交流と外交政策の視点はよく論じられた一方、国と国の発展の流れにおいて国民は大事な参加者としての役割は余りにも重要視されていなかった。そのため、本研究は、日米関係に影響を及ぼす人と団体としての役割を示し、これからの国際協調・地域安定のために人と団体の役割も重視すべきだという歴史的教訓を提供することを通して、社会に貢献することを目標とする。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究は、当時の地元の新聞記事、沖縄県公文書館及び国立国会図書館、外務省外交史料館の資料を幅広く取り調べ、歴史研究の手法を採用した。また、現地での聞き取り調査やインタビューを通じて当時沖縄の団体の反米軍・反基地の活動の様子をより鮮明に再現した。

具体的に、関東と関西の国立国会図書館に所蔵される沖縄米兵少女暴行事件に関する論文と資料をまとめ、東京の外務省外交史料館で沖縄と日米関係に関する資料を入手し、沖縄の歴史と日米政府間の交渉を明らかにした。

第一回目の沖縄県現地調査では、主に沖縄県立図書館で行われた。そこで、当時の「琉球新報」と「沖縄タイムス」(当時の地元の新聞記事は沖縄でしか閲覧できない)の新聞記事をまとめ、事件発生後の沖縄の各団体は具体的にどのような反対運動をしたのかを明らかにした。

第二回目の沖縄県調査では、沖縄県立図書館で新聞記事以外の沖縄各団体に関する書籍や資料を読み調べ、また、沖縄県公文書館にある沖縄県女性史や女性団体の歴史に関する資料を入手して研究に取り組んだ。沖縄県では、「沖縄県婦人連合の会」、「沖縄県婦人の翼」などの女性団体はたくさんあり、それぞれ主要な役割を果たしたが、事件後の反対活動に女性の人権擁護という目標は一致したことがわかった。

第三回目の沖縄県調査では、連絡を取った「沖縄県婦人連合の会」と「沖縄県女性の翼」という団体に訪問

調査をした。そこで、婦人連合会と女性の翼の歴史に関するパンフレットや書籍などの資料を手に入れた。また、婦人連合会の現任会長の輿那覇信子さんと女性の翼の理事玉城智津子さんにインタビューして取材した。これらの資料は女性団体の発展歴史と当時の反対運動をより詳しくかつ鮮明に示した。輿那覇信子さんの記憶によって、当時各団体は必死に反米軍、反基地活動を行なった。沖縄の発展と平和には、女性団体の力は決して侮れないということを明確にした。

【結論・考察】（400字程度）

本研究は、1995年沖縄米兵少女暴行事件発生後、沖縄の女性グループを中心とした各団体の反米軍・反基地運動の歴史を研究対象とし、これらの反対活動が当時沖縄の行方と日米関係にどのような影響を与えたかを明らかにした。

重要な政府間の政策文書と対話、現地での資料と取材をまとめ、歴史学の研究方法で論理的に分析した上で、主に三点の結論を主張する。

- (1) 沖縄の女性団体がこの反米軍・反基地の活動に重要な役割を果たした。他の団体と違い、彼女たちは徹底的に女性の人権擁護を動機として反対運動を行なった。
- (2) この反対運動は、沖縄の女性の人権擁護にさらに一歩を押ししたが、沖縄問題の根源である日米地位協定と沖縄の米軍基地は相変わらず大きく変わることもなく、成敗混在であった。
- (3) 沖縄県と本土の「距離」があって事件に対する「温度差」は確実に存在したので、沖縄県の反米軍・反基地の声が大きくても、日米の地位協定は変わらず、逆に日米同盟は強化された。

将来は、引き続き沖縄問題に関心を持ち、21世紀初頭の沖縄の出来事と沖縄の人と団体の反応が、日米関係にどのような影響を与えたのかを研究し、両国関係史における人と団体の役割を強調する。